

緩和ケア内科

～苦しみを予防し、和らげることに力を注いでいます～

■緩和ケア内科医長・緩和ケア推進室室長 宮武 和代

緩和ケアとは

緩和ケアとは、WHOにより「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・

オブ・ライフ(QOL)を改善するアプローチである。」と定義されています。

患者さんご家族が必要とされる治療やサポートは多種多様であり、様々な職種のメンバーの関与が必要です。そのため、多職種による緩和ケアチームが緩和ケアを担当します。

当院の緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは2006年に活動を開始しました。2016年には緩和ケア内科が新設され、緩和ケアの専従医師がチームに加わりました。現在は緩和ケア内科医、呼吸器内科医、消化器内科医、外科医、精神科医、がん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、退院調整看護師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、リハビリ専門職、歯科衛生士が主治医や病棟スタッフと連携して患者さんご家族に緩

和ケアを提供しています。

チームのメンバーが身に着けているバッジは、「日中は苦痛が無く笑顔で過ごすことができ、夜間はゆっくり眠ることができるようなケアを提供する」という目標を表しています。



緩和ケアチーム

後列左から

熱田幸子 (がん病態栄養専門管理栄養士)
中西初美 (がん病態栄養専門管理栄養士)
黒原かおり (退院調整看護師)
高淵陽子 (医療ソーシャルワーカー)
池内克馬 (作業療法士)
宮下広大 (理学療法士)

前列左から

田頭尚士 (がん専門薬剤師)
岸口武寛 (精神科医長)
藤原慶一 (呼吸器内科医長・緩和ケア内科医師)
宮武和代 (緩和ケア内科医長)
市由美子 (がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア専従看護師)
松尾敬子 (歯科衛生士)

緩和ケアチームの活動内容

緩和ケアを必要とされる患者さんご家族に、適切なケアが提供されるように、緩和ケアチームは様々な活動を行っています。

主治医から依頼された患者さんには、個別に介入します。外来でも入院中の病室でも、必要なメンバーがお話を伺い、治療やケア、療養のサポートを行います。

週1回、チームが介入している患者さんと、医療用麻薬を使用している入院患者さんについて、症例カンファレンスを行っています。カンファレンス後は病棟ラウンドを行い、病棟スタッフとの情報共有やアドバイスをを行います。

がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師、緩和ケアに関わる医療従事者を対象に、年に1回研修会を開催しています。これは、基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで、緩和ケアが診断の時から適切に提供されることを目的としており、今年度も10月27日に多数のスタッフが受講して充実した研修となりました。緩和ケアが特別なことでなく、あたりまえの医療・ケアとして普及するように病院としての取り組みでもあります。



2019年緩和ケア研修会

緩和ケアの理解を深め、地域連携の輪を広げる目的で、医療関係者を対象とした講演会も年に1回行っています。11月21日に、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長・一般社団法人全国がん患者団体連合会副理事長の松本 陽子先生をお迎えして、『『わたしらしく』を支える医療への期待』というテーマでご講演いただきました。院内外から100名を超える参加があり、患者さんご家族の思いを聴かせていただきました。



2019年緩和ケア講演会

院内のスタッフを対象とした緩和ケアの勉強会も行っています。チームのメンバーが講師となり、それぞれの職種・立場での緩和ケアについて話をします。

おわりに

「診断された時からの緩和ケア」は目標ですが、緩和ケアについて考えるタイミングは、「早すぎる」ことも「遅すぎる」こともありません。緩和ケアを必要とする方に適切な

ケアが行われ、より豊かな人生を送っていただけるように、緩和ケアチームは活動を続けます。

今後とも、ご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。